

●優秀賞

パフォーマンス課題と ルーブリックで発信力を 問う英語授業

～1年英語科 SP2 道案内「留学生に佐賀大学
周辺マップを作って紹介しよう」を通して～

佐賀大学文化教育学部附属中学校 よこやま ちはる
横山千晴



〈要約〉

本校英語科では、今年度学力デザインを見直し、中学校の各学年が行う表現活動の最終ゴールの姿を再設定した。その最終ゴールに向かって、各学年のパフォーマンス課題を設定し、その評価の方法としてルーブリック評価を用いている。ルーブリックによる評価は、一般的に形成的評価として用いられるが、本校では、生徒と共にルーブリックを作成、改善を行い、最終的な評価にも用いている。本研究では、1年生Speaking Plus2(SP2) 道案内「留学生に佐賀大学周辺マップを作って紹介しよう」における単元構想や帯活動、ルーブリックの作成から使用の実際を振り返り、その有効性と課題を探る。

〈キーワード〉

逆向き設計による単元構想、パフォーマンス課題、中間発表会、生徒と共同したルーブリックの作成と改善

1 はじめに

平成23年6月に「『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に関わる状況調査結果」が文部科学省から発表された。これは、生徒の外国語能力の向上のため平成28年度の達成を目指して作られたものである。その5つの提言とは、以下のとおりである。

- 提言1 生徒に求められる英語力について、その達成状況を把握・検証する。
- 提言2 生徒にグローバル社会における英語の必要性について理解を促し、英語学習のモチベーション向上を図る。
- 提言3 ALT、ICT等の効果的な活用を通じて生徒が英語を使う機会を増やす。
- 提言4 英語教員の英語力・指導力の強化や学校・地域における戦略的な英語教育改善を図る。
- 提言5 グローバル社会に対応した大学入試となるよう改善を図る。

特に提言1から提言3は、中学生に大きく関わりのあるものである。提言1では、生徒に求められる達成目標をCAN-DOリストの形で具体的に設定し、公表することが求められている。提言2では、実際の英語の使用場面に即した題材を扱ったり、ディベートやディスカッションなどを積極的に取り入れたりするなど質の高い授業を行うことや、実際に英語を使って働いている場面を見せる（インターンシップ）の必要性、学校や地域などでスピーチ大会やディベート大会を設定することを求めている。提言3では、ICTによる個人トレーニングで生徒の興味関心を喚起し、習熟に合わせた指導、わかりやすい授業を行うことを求めている。

本校英語科では目指す生徒像として「自律し

た英語学習者」を設定している。「自律した英語学習者」を具体的には、以下のように捉えている。

- ① 英語を学ぶ意義や喜びを見出し、生涯にわたって英語を学び続ける生徒
- ② 目標達成や問題解決のために学んだ知識や技能を活用し、自分の思いや考えを相手と伝え合う力を高め続ける生徒
- ③ 自ら問いを設定し、自分に合った方法を選択しながら、その答えを追究し続ける生徒

このような生徒を育成するために、本校英語科では「逆向き設計」論に基づき単元構想を行い、リアルな文脈（あるいはシミュレーションの文脈）において、知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような課題であるパフォーマンス課題を設定している。また、その評価方法としてルーブリックを用いている。本来教師が指導の途中の形成的評価に用いるところを、生徒と共に作成し、生徒の到達度によって生徒と教師が修正を加えたりして、総括的評価にも用いている。

また、今年度から教科書が変わったこともあり、年間指導計画と学力デザイン（到達目標を示した物）を見直し、各学年の表現活動のゴール（1年生 speech and Q&A, 2年生 debate, 3年生 discussion）を設定することで3年間系統立てた指導が行えるようにしている。このような本校英語科の取り組みは、まさに先に述べた『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』と合致しており、グローバル社会で異なる国や文化の人々と英語をツールとして円滑にコミュニケーションを図ろうとする能力をもった生徒を育成できるものと考えられる。

本研究では、1年生 Speaking Plus2 道案内「留学生に佐賀大学周辺マップを作って紹介しよう」における単元構想や帯活動、ルーブリックの作成から使用の実際を振り返り、その有効

性と課題を探る。

2 単元目標と内容

(1) 研究対象となる学級

本学級の生徒は、表現活動に大変意欲的である。これまでに行ったスキット発表、自己紹介やパフォーマンス課題の「なりきり名人になろう」などの活動では、一人一人の発表内容が違って興味深く、生徒自身も楽しみながら活動することができていた。1学期末に行った英語授業に関するアンケートでも、英語の勉強が楽しく、英語を使って外国の人と話してみたいと多くの生徒が答え、意欲の高さがうかがえる（資料1）。しかしながら、パフォーマンス課題へ向けた事前準備段階で、自分が表現したいことを英語に訳すところで難しさを感じたと答えていた生徒が多かったことも事実である（資料2）。小学校の外国語活動において音声で触れた表現が、中学校で文字を伴って教科書等に新出した際に、生徒は覚えやすいと感じていることがわかっている。そこでパフォーマンス課題に必要な表現は、帯活動で繰り返しinputして、表現活動につなげていく必要がある。

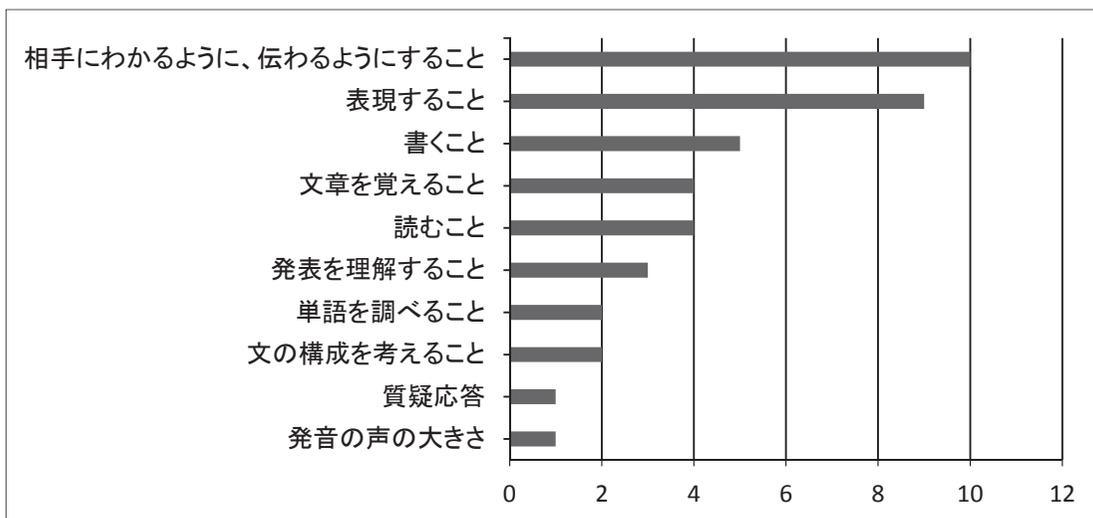
- (2) **単元名** Speaking Plus 2 道案内
 (NEW HORIZON English Course 1)
 「留学生に佐賀大学周辺マップを作って紹介しよう」

(3) 単元の概要

本単元では、町中にある目的地への徒歩での行き方を尋ねたり、教えたりする会話を学ぶ。どんな場面で道案内するかによって、表現活動に広がりをもたせることができる単元である。そこで、来日して間もない佐賀大学の留学生に、大学周辺の施設や店舗についてICTを利活用しながら紹介し、そこまでの道案内をした後で質疑応答を行うという場面設定をする。聞き手の興味や関心に合った紹介ができるように、留

【異文化への関心】	1年1組	1年2組	1年3組	1年4組	学年平均
① 外国に行きたい	3.5	3.8	3.7	3.5	3.625
② 外国の人に道を聞かれたら答えるようにしたい	3.6	3.5	3.5	3.4	3.500
③ 外国の文化(生活や食べ物など)に興味がある	3.3	3.6	3.1	3.1	3.275
④ 外国の有名人やスポーツ選手に興味がある	3.4	3.3	3.0	3.1	3.200
⑤ 英語を使って外国の人と話してみたい	3.5	3.6	3.5	3.2	3.450
⑥ 将来外国に留学したい	2.6	3.0	2.5	2.6	2.675
⑦ 将来英語を使う仕事をしたい	2.3	2.9	2.4	2.5	2.525

資料1 中1英語アンケート(一部抜粋)



資料2 1年1組「パフォーマンス課題で困ったこと」集計結果

学生との交流会を事前に行い情報収集し、準備を行っていく。交流会では、今までに学んだ紹介(自己・家族・学校)や日常会話等で学んだ表現を活用させる。

そこで今回は、「来日して間もない留学生に、佐賀大学周辺をわかりやすく、説明するにはどうすればよいか」という単元を貫く問いを立て、以下のようなパフォーマンス課題を設定した。

パフォーマンス課題「留学生に佐賀大学周辺マップを作って紹介しよう」

あなたは、附属中国際交流ボランティアの一員です。日本に来て間もない留学生がいて、佐賀大学周辺にどんな施設や店舗があるのかわかりません。まずは身近な周辺の地理について知ること、彼らの生活は豊かになることでしょう。佐賀大学周辺マップを作って、グループで紹介してみましょう。

(4) 単元構想

過程	課題と内容【言語活動】	時間	教師の指導・支援	評価とその方法
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 帯活動：①Useful Expressions 8 道案内表現 ②One minute Talk </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 帯活動：帯活動①を利用して、パフォーマンス課題で必要になるであろう基本的な表現について補充をする。また、帯活動②を利用して、会話訓練を行う。 </div>	

過程	課題と内容【言語活動】	時間	教師の指導・支援	評価とその方法
導 入	1 introduction	1	(1) 本単元の目標とパフォーマンス課題を提示し、学習の見通しをもたせる。	エ 道案内の表現や用法を理解している。 【観察】
	2 道案内してみよう。 I'm looking for ~. Go down this street. Turn left at the second traffic light.		(2) 教科書の基本表現やモデル対話を確認させ、帯活動で行っているUseful Expressionsで既習の表現も入れながら、ロールプレイをさせる。	
問い：来日して間もない留学生に、佐賀大学周辺をわかりやすく、説明するにはどうすればよいか。				
展 開	3 留学生と交流しよう。	1	(3) グループに分かれて自己紹介や学校紹介をさせたあと、留学生が知りたいと思っている情報について把握させる。	
	4 ルーブリックを作ろう。 【②話し合う】	0.5	(4) モデルパフォーマンスを見せることで、より具体的な目標をもたせる。また、よりよいパフォーマンスにするためには、どのような要素が必要か話し合わせ、ルーブリックを作成させる。その際、発表の仕方だけでなく、発表内容に関しての項目を加えさせる。	
	5 紹介する施設や店舗等を決めて、情報を整理しよう。	2.5	(5) ICT機器を使うことを視野に入れ、情報収集をさせ、効果的に使えるように助言する。	
	6 中間発表会をしよう。	1	(6) 実際に発表することで、自己評価させ、改善ポイントを挙げさせる。また、ルーブリックについても、改善の必要があれば、改善を加えさせる。	
	7 原稿の修正、発表準備をしよう。	1	(7) 改善修正ポイントについて、具体的なアドバイスを行う。	
	8 留学生に佐賀大学周辺の周辺マップを作って紹介しよう。【①説明する】	2 (2/2) 本時	(8) 実際に留学生とコミュニケーションを取る場合、表現しづらい場面も出てくるが、その場合には言い換えたり、	イ 聞き手が理解しているか意識して、発表方法を工夫

過程	課題と内容 [言語活動]	時間	教師の指導・支援	評価とその方法
展開	単元終了時に到達させたいゴールの姿 ・(徒歩による) 道案内ができる ・施設や店舗について簡単な説明ができる ・Q and Aのやりとりができる		ジェスチャーなどで表現することも押さえさせる。	することができる。【観察】 ア 聞き手に積極的に伝えようとしている。【観察】
展望	9 単元の振り返りをしよう。	1	(9) 発表会のビデオを見て、客観的に振り返りをさせ、今後にかかすべきポイントを挙げさせる。	

3 授業の実践

(1) 帯活動の取り組み

① Useful Expressionsの活用

パフォーマンス課題に有用な表現を集め、各授業の最初に取り扱いをしている。未習の文法事項や単語を含んだものであっても、その場面で知っておくべき表現をinputすることで、生徒の表現活動の基礎を作っている。資料3は今回の単元で使用したUseful Expressionsである。

② One Minute Talkの活用

既習の表現を活用して、即興的に自分の言いたいことを表現したり、相手が話した内容に対して質問したりする力を付けていくためone minute talk 活動に取り組んでいる。同じ題材でペアを変えながら3回(1授業で1回)同じ表現活動を行うことにより、段階的に使える表現を増やしていくことができる(資料4、5)。

A		B	
1	Excuse me.	すみません。	Yes. / Sure. / O.K.
	Can you help me?	ちょっとお願いですが。	はい。/ いいですよ。/ わかりました。
	I'm looking for the library.	私は図書館を探しています。	Go pass the park and you can see it.
	Where's the library?	図書館は、どこにありますか。	Cross that street and you can see it.
	How can I get to the library?	図書館へ行くにはどうしたらいいですか。	Go along this street and you can see it.
	Please tell me the way to the library.	図書館への道を教えてください。	Go straight and you can see it.
	Could you tell me the way to the library?		Go down(up) this street and you can see it.
2			Turn left (right) at the first corner (at the traffic light).
			Go two blocks and you'll see it on your left(right).
			Just in front of the building.
			I'm sorry. I'm stranger here.
			I'm sorry. I don't know.
3	How long does it take?	どのくらい時間がかかりますか?	It takes about 30 minutes
	How far is it from here?	どのくらい距離がありますか?	It is about 30 minutes.
4	Are there any landmarks?	何か目印はありますか?	There is a post office in front of it.
5	How many stories does it have?	それは何階建てですか?	It has 3 stories.
6	How old is the building?	その建物はどのくらい古いのですか?	It is about 100 years old.
7	How much is it to get in?	入場料はいくらですか?	It is 500 yen.
8	What are the business hours?	営業時間は何時から何時までですか。	It is from 8:00 to 5:30.
9	Thank you very much.	ありがとうございます。	You're welcome. / Not at all.

*at the corner of ~ ~の角 *near ~ ~の近く *in front of ~ ~の前 *opposite to ~ ~の向かい側
 *at the first corner 最初の曲がり角 *go straight まっすぐ行く *on your right (left) 右(左)側に *turn right (left) 右(左)に曲がる

資料3 Useful Expressions8 道案内

磨いてみよう！会話技術

会話態度チェック項目

① 相手と視線を合わせる。	
② 会話時間を考え、会話を共有する。	
③ 質疑応答になるのを避ける。	
④ 会話を発展させるために、前置文に情報を付け加えるようにする。	
⑤ 会話を続けるためには2人の協力が必要であり、平等に責任を持っている。	
⑥ 話題をすぐに変えないようにする。	

基本的な会話技術チェック項目

① フォーラーを使って眼を移める。	
② 相づちを打つ。	
③ 賛同をする。	
④ 自分のことを述べてから相手に質問する。	
⑤ 相手が言ったことを確認したり、わからないことについて尋ねる。	
⑥ 自分の感情や感想を述べる。	
⑦ 説明する。	
⑧ 自分が言ったことを確認する。	
⑨ ジェスチャーを使う。	
⑩ 顔に表情をつける。	

* 相づちには次に示すように、いくつかの異なる働きがある。

① 興味を持って聞いていることを相手に示す。	Uh-huh. Yeah. Is that so?
② 許可、了解を示す。	All right. Sure. No problem.
③ 自分が理解していることを伝える。	Oh, I see. I get it! I understand!
④ 相手の理解が正しいことを伝える。	That's right. You're right.
⑤ 賛成、同意を伝える。	Oh, yes. I think so, too. Me, too.
⑥ 反対であることを伝える。	I disagree. I don't think so.
⑦ 喜びや感動を示す。	That's nice. Cool! How exciting!
⑧ 驚きや意外性を示す。	Really? Wow! No kidding!
⑨ 悲しさに対する同情、残念な気持ちを示す。	That's too bad. That's a shame.

One Minute Talk

Class() No() Name()

Start With: _____

1 回ごとに自分の目標を決めて、活動に対する達成度を評価させている。

Assessment				
eye contact	A	B	C	D
well等を使った	A	B	C	D
	A	B	C	D
Total	A	B	C	D

こんな表現が言えたら: _____

Date:	Partner:	Assessment				
相手の情報: ② _____		2文以上の情報	A	B	C	D
		相手を助けた	A	B	C	D
		total	A	B	C	D

こんな表現が言えたら: _____

Date:	Partner:	Assessment				
相手の情報: ③ _____		2文以上の情報	A	B	C	D
		相手を助けた	A	B	C	D
		total	A	B	C	D

こんな表現が言えたら: _____

反省・感想

「こんな表現が言えたら」という欄を作り、生徒からの質問に答える。次の時間の最初に取り上げて、全体でも確認することで使える表現を増やす試みをしている。

資料4 One Minute Talk ワークシート

What sport do you like?

S : What sport do you like?

T : I like tennis and golf and swimming.

S : Wow.

T : How about you?

S : I like basketball. I'm a member of the basketball club.

T : Oh, really? Are you a good basketball player?

S : No.

T : What is your position? Guard ?

S : Guard.

T : So do you play basketball every day?

S : So so.

T : How long do you practice? One hour, two hours, one and half hours...

S : Two hours.

T : Ok. Thank you very much.

S : 生徒 T : 教師

資料5 公開授業の際の生徒と教師のOne Minute Talk プロトコル

(2) 原稿作成に向けて

① モデルパフォーマンスの提示

モデルパフォーマンス（資料6）を示すことで、生徒にパフォーマンス課題への具体的なイ

メージをもたせたり、このパフォーマンス課題において大切な要素は何かを考えさせたりすることに利用した。また、文がどのように構成されているのか、この後行うマッピングとどのよ

★モデル文	プレゼンテーション内容	ビジュアルエイド などの手立て
①あいさつ、 説明する物	Hi, I'm Chiharu. I'm going to talk about <i>Fuzoku</i> junior high school.	★ 
②施設や店舗 等の名前	This is a picture of <i>Fuzoku</i> junior high school. ★	
③場所を説明 する言葉 (簡単に)	It is a famous junior high school in Saga.	
④ 行き方 所要時間	To go there, turn left from the school gate and go down this street. You'll see it on your right. It is in front of Saga Nishi high school. It takes only about 5 minutes from Saga University.	
⑤その場所に ある物など	<i>Fuzoku</i> junior high school has about 480 students and about 30 teachers. There are three big events. First is a sports day. ★ Second one is a culture festival. ★ Third one is a chorus contest. ★ The students practice hard for them.	★  ★ 
⑥思考・感想	I think the events are wonderful. I like the school very much.	★
⑦結びの言葉	Please visit <i>Fuzoku</i> junior high school! Thank you for listening.	★ 
	留学生にぜひとも 教えたい情報を整理して ビジュアルエイドやジェスチャー を使って効果的に伝えてみよう。 相手の様子を見て、話すスピードや 説明の仕方(くり返し、言い換え等)を 変えてみよう。	

資料6 モデルパフォーマンス原稿

うに関連しているのかわかるように示した。

② 留学生との交流会

相手のニーズに合った施設や店舗の情報収集をしてパフォーマンス課題に備えるという必然性や生徒のモチベーションを高めるために、原稿作成以前に留学生との交流会を行った。

交流会は、留学生の自己紹介 Q and A、3つのグループに分かれて附属中紹介（前回のパフォーマンス課題・写真1）、留学生の出身国の中学校紹介、Q and A（写真2）、全体でシェアリング、留学生から佐賀大学周辺の施設や店舗について知りたいことの情報収集という流れで実施した。

この交流会で留学生が知りたいのは、レストラン、公共施設、歴史的施設、おすすめスポッ

トだということがわかり、生徒はどのスポットを紹介するのかより具体的に話し合いを進めることができた。

③ マッピングによる情報整理

紹介する場所を決定したら、マッピングシートを使って情報を整理させた。1年生は特に文の構成やボキャブラリーに対する知識が少ない。そのため、マッピングにあらかじめ情報整理のための文言を入れ込んでおき、表現するものが広がり過ぎないように留意した（資料7）。

(3) パフォーマンスの実際（2グループ抜粋）

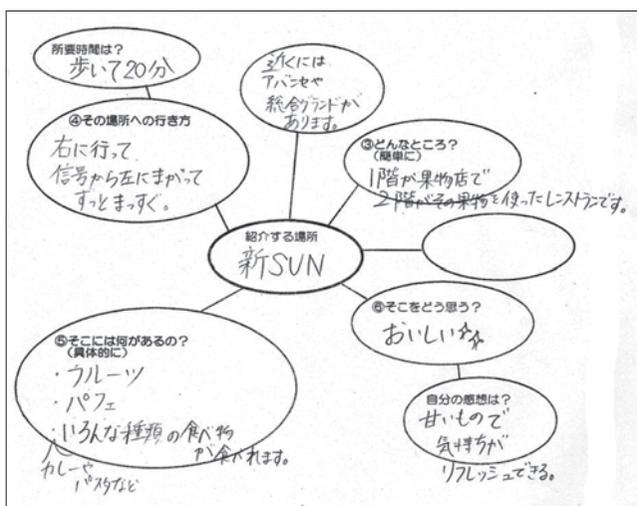
次に示すのは、Group1とGroup10によるパフォーマンスの実際である（資料8）。



写真1 附属中紹介後の Q and Aの様子



写真2 留学生の出身国の中学校紹介の様子



資料7 生徒のマッピング (Group1 Fruit Shop Shin Sun)

Group1 : Fruit Shop “Shin Sun”

S1 : Hi, I'm Daisuke.

S2 : I'm Azusa.

S3 : I'm Kento.

S4 : I'm Hanano.

SA : What fruit do you like?

J1 : Yakitori.

T : Oh, they are asking “what fruit do you like?”

J1 : Oh, sorry. What fruit? Grape fruits.

T : How about you?

J2 : I like Mango.

J3 : Water melon.

T : And you?

J4 : I like apples.

T : I like strawberries. OK. Go ahead.

SA : We are going to talk about a fruit shop.

S3 : To go there, turn right from the school gate. And turn left at the first corner.

Go up this street, and you'll see it on your left. It takes about thirty minutes by bike from Saga University. It's a famous fruit shop in Saga.

S2 : It has more than 50 kinds of fruits on the first floor. It has a fruits parlor on the second floor.

S4 : You can eat many kind of dishes there. For example, curry and rice, pasta and parfait made with fresh fruits. We also can buy fruits on the first floor. Their fruits are really good.

S1 : It is very refreshing. We think you should go there to eat fresh fruit there.

S3 : Please visit fruit shop “Shin Sun.”

SA : Thank you for listening.

T : OK. Now we have question time. If you have a question, please ask them.

J2 : What is your favorite dish at Shin Sun?

T : What's your favorite?

S3 : I like Mango Parfait.

T : How about you, Daisuke?

J1 : I like fruit parfait.

T : How about you?

S4 : I like melon.

S2 : I like strawberry parfait.

J4 : How often do you go there?

T : Once a week, twice a month...

S3 : Twice a year.



T : How about you, Daisuke?

S1 : Me, too.

S4 : Me, too.

J4 : Oh, so next time, let's go together.

T : Any other questions? OK? Thank you very much.

Group10 : Saga Central Post Office

SA : Hi.

S1 : I'm Taiga.

S2 : I'm Miwa.

S3 : I'm Riku.

S4 : I'm Shiho. Do you often write a letter?

J1 : So so.

J2 : Sometimes.

S4 : It is easy to send an e-mail. But we think we feel happy when we get a letter from our friends and family.

Do you want to send Japanese things to your family as a Christmas present?

J3 : Oh, yeah.

S1 : We are going to talk about Saga Central Post Office.

This is a picture of Saga Central Post Office.

From there, you can send letters and packages.

S2 : To go there, turn right from the school gate and go straight. Turn left at the fifth corner. Go straight, you'll see it on your right. It takes only about 25 minutes from Saga University.

S3 : On New Year's Day, we send cards to each other. We call it "Nengajyo."

~show judges some "Nengajyo" ~

S3 : We often draw a picture of an animal as a new year's symbol. Look at this picture.

Next year's symbol animal is a snake.

S4 : So they decorate their building with a snake in front of the door.

We think it is a very convenience place. Please visit and use Saga Central Post Office.

SA : Thank you for listening.

T : Do you have any questions?

J3 : Do you often send a letter?

SA : Yes. Yes.

J3 : To who?

SA : Friends. Relations.

J4 : How many Nengajyo did you send last year?

S3 : I sent 25.

T : 25? Wow. How about you?



S4: I sent about 16.

S2: I sent 100.

T: 100? Really? How about you?

S1: Zero.

T: Do you have any questions? OK. Thank you very much.

*S1～S4:student, SA=All the students, T=teacher, J1～J4=Judge, JA=All the judges

資料8 パフォーマンスプロトコル

(4) ルーブリックによるパフォーマンス評価

① ルーブリックの概要

ルーブリックとは、学習指導（学習活動）の結果、どの程度の成果が上がったかを評価するための評価指標（評価基準表）である。形式としては、質の善し悪しを示す数段階の尺度（scale）とそれぞれの段階における典型的な状態（performance）を説明する記述からなっている。ルーブリックの語源は赤いインクを意味するラテン語（rubrika）に由来する。赤インクは祈禱書の重要な指示を記すために使われ、努力の積み重ねを示すための目標を指すようになったものであると言われている。

② ルーブリックの作成の意義

ルーブリックを作成することにより、主観や印象で評価されがちな態度や技能がより客観的に評価できるようになるばかりか、生徒が自己の到達状況を客観的に把握し、明確な目標をもってパフォーマンス課題に取り組むことができるようになるのではないかと考える。具体的には生徒、教師に対して次のような効果が期待されると考える。まず、生徒に対しては、単元で求められる学習目標が明確になること、自分の到達度を知ることができること（できること、できないことの把握）、モチベーションを上げ自律的・主体的な学びを助けるということ、自己評価の客観性が高まり、自己評価能力が高まるということが挙げられる。次に、生徒・教師双方に対しては、補充的学習内容や発展的学習内容が明確になることや生徒と教師が評価を共

有することで評価に透明性がでるということが挙げられる。

③ ルーブリックの作成手順

1) ルーブリック第1案作成

まず教師がパフォーマンス課題に対する予備的ルーブリックを作成し、それに基づき、モデルパフォーマンスを行い、到達すべき具体的なモデルを生徒に示した。その後、教師のモデルとこれまでのパフォーマンス課題の経験をもとに、相手にわかりやすく説明するための要素を生徒に考えさせた。すると、資料9に示す要素が挙げられた。

- | | |
|------------|-----------|
| ・写真のタイミング | ・ビジュアルエイド |
| ・声の大きさ | ・大きい声 |
| ・間、話す速度 | ・文章の量 |
| ・タイミング | ・ICTの活用 |
| ・イントネーション | ・発音 |
| ・滑舌 | ・表情 |
| ・内容の深さ | ・文章の量 |
| ・内容のわかりやすさ | ・間 |
| ・ICTの利用 | ・話す速さ |
| ・目線 | ・アイコンタクト |
| ・ジェスチャー | ・内容の質 |
| ・発表態度 | ・暗唱 |

資料9 1組が挙げた要素項目

これらを、発表に関することと内容に関することに分類させ（写真3）、一緒に評価できるものを1つにまとめさせていった（資料10）。そのまとまりにタイトルを付け、A（5ポイント）、B（3ポイント）、C（1ポイント）



写真3 要素を分類している様子

での評価基準を作成させ、生徒と教師が話し合いながら、細かい部分を調整していき、ルーブリックの第1案（資料11・写真4）を完成させていった。



写真4 評価基準を掲示している様子

発表に関すること			内容に関すること	
声	目線・態度	visual aids	内容	文章量
<ul style="list-style-type: none"> ・大きい声 ・声の大きさ ・間、話す速度 ・発音・間 ・滑舌・話す速さ ・イントネーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・表情 ・アイコンタクト ・発表態度 ・目線 ・暗唱 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真のタイミング ・ビジュアルエイド ・タイミング ・ジェスチャー ・ICTの利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容のわかりやすさ ・内容の深さ ・内容の質 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の量

資料10 分類してまとめタイトルをつけたもの

	発表に関すること			原稿に関すること	
	声	目線・態度	visual aids	内容	文章量
A (5)	相手にわかりやすいように間や抑揚に気を付けながら、はっきりと大きな声で発表している。	相手と目線を合わせながら発表している。(堂々としている)	話に合わせてタイミングよく、また効果的に写真やジェスチャーを使っている。	紹介する場所についての情報が5以上含まれている。	25文以上書いている。
B (3)	部分的に間や抑揚に気を付けたり、ところどころ聞こえない声で発表したりしている。	原稿にところどころ目を落としながら発表している。(3回まで)	話に合わせて写真やジェスチャーを使っているが、タイミングがずれていたり、情報が少ない。	紹介する場所についての情報が3~4含まれている。	16~24文書いている。
C (1)	聞き取りにくく、間や抑揚に工夫がない。	相手を見ず、原稿を見ながら発表している。	写真やジェスチャーを話に合わせて活用していない。	紹介する場所についての情報が2つ以下である。	15文以下しか書いていない。

資料11 ルーブリック第1案

2) ルーブリックの改善

ルーブリック第1案に基づき、それぞれのグループで原稿を作成し、発表準備を行った。そして、中間発表会を行って相互評価を行うことで、自分たちのパフォーマンスの到達度合いを知ったり、改善すべき点を確認したりする作業を行った。また、実際にルーブリック第1案を使ってみて、評価すべき項目はこれでいいのか、評価基準はこれでいいのか確認した。

今回は、内容に関わることに對して大きく変更を行った。具体的な情報量を挙げて目標としていたが、どのグループもAに到達することができたので、その質やわかりやすさ、興味関心を引くものであるかという発表内容の評価に変更した。また、文章量の項目は、あくまでも原稿を準備する段階のものであり、今後評価するものではないので、質疑応答にうまく対応できるかという項目に変更をした(資料12)。

3) 評価の実際

今回のパフォーマンス課題は4人の生活班グループによるものであったが、生徒はその中の一人が担当して評価を行った。評価する

相手は、自分が付けているネームカードと同じ色のネームカードを付けている生徒とした。男女の評価者の割合が同じになるように、教室の座席の中央から男女が入れ替わるように指示した(資料13)。

資料14は、ルーブリック第2案をジャッジ用に英訳したものである。内容評価の部分でジャッジである留学生にとって、そのプレゼンテーションに興味をもつことができるものであったのか判定してもらおう項目を加えた。

資料15、16は、パフォーマンスの実際で例として挙げたGroup 1, Group 10の生徒に対する生徒とジャッジによるルーブリック評価である。生徒にとってルーブリックを作成して評価に使用するのは今回が5回目であるため、各項目に対して困惑することなく評価することができていた。回数を重ねるごとに生徒同士が求めるレベルや教師と生徒双方が求めるレベルが重なってきて大きな差を生むことがなくなってきた。これは、その項目に対してどんなことが求められているかということが生徒の中に認知され、根付いてきたからと言っていいのではないかと考える。

	発表に関わること			内容に関わること	
	声	目線・態度	visual aids	発表内容	質疑応答
A (5)	相手にわかりやすいように間や抑揚に気を付けながら、はっきりと大きな声で発表している。	相手と目線を合わせながら発表している。(堂々としている)	話に合わせてタイミングよく、また効果的に写真やジェスチャーを使っている。	情報量が多く、内容がわかりやすい。聞き手が興味をもてるように工夫が見られる。	質問に対して、全て答えることができる。
B (3)	部分的に間や抑揚に気を付けたり、ところどころ聞こえない声で発表したりしている。	原稿にとこところ目を落としながら発表している。(3回まで)	話に合わせて写真やジェスチャーを使っているが、タイミングがずれていた、情報が少ない。	情報量が多いが、内容が少しわかりづらい。聞き手が興味をもつように、工夫が少し必要である。	質問に対して、ときどき答えることができる。
C (1)	聞き取りにくく、間や抑揚に工夫がない。	相手を見ず、原稿を見ながら発表している。	写真やジェスチャーを話に合わせて活用していない。	情報量が少なく、内容もわかりづらい。聞き手が興味をもてるよう工夫が必要である。	質問に対して、答えることができない。

資料12 ルーブリック第2案

今回は、ループリック第2案がパフォーマンスの最終評価基準となった。生徒と教師と一緒に作り上げていった評価基準を使って評価をするので、生徒が目指すものが明確となり、どんな点が評価されているのかすでに周知されている。ループリックを使って生徒も評価をするが、相手のパフォーマンスを見て評価することで評価者としての目を養い、自分のパフォーマンスを高めることに役立てさ

せていくことがねらいである。

実際の評価は、教師とジャッジが評価したループリックのポイントを総合して、表現能力の評価項目に加算している。

4 考察

(1) 帯活動の取り組みについて

Useful Expressions はパフォーマンス課題に対して有用な表現を集めて取り組んでおり、そ

男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
A	C	A	C	C	A	C	A
B	D	B	D	D	B	D	B
A	C	A	C	C	A	C	A
B	D	B	D	D	B	D	B
		A	C	C	B		
			D	D			

資料13 パフォーマンスグループ座席表

	performance			contents	
	voice	eyes and attitude	visual aids and gestures	information	interest
A (5)	Performs with clear loud voice and with proper pause and intonation.	Performs with proper eye contact and pause	Performs with good visual aids and gestures	Full of information and easy to understand	very interesting
B (3)	Performs adequately with average clearness and loudness and with so-so pause and intonation.	Performs with partial reading of manuscript(some eye contact)	Performs without proper timing of visual aids and gestures	Full of information but sometimes difficult to understand	interesting
C (1)	Performs with unclear voice and with unclear pause and intonation.	Performs completely with reading of manuscript(no eye contact)	Performs without using visual aids and gestures	Not a lot of information and difficult to understand	not so interesting

資料14 ジャッジ用ループリック (第2案の英訳)

のままの表現やそれを変化させた形が使われ生徒の中に定着している。今年1年間で使用した Useful Expressions を英語科で共有し、今後話し合いを行いながら少しずつ変化させてよりよいものにしていき、本校での3年間の Useful Expressions を完成させていきたい。

One Minute Talk では、「相手が何を言っているかわかるけれども、何と返せばよいかかわからない」、「何と相手に聞けばいいのかわからない」ともがいている生徒の姿が見られたが、とにかく話を続けたい、英語で話してみたいとい

う生徒の気持ちを感じられた。同じ題材に対して相手を変えて3回行うことで、話がだんだんと広がり、どう答えてよいか、どう聞けばよいか実践の中で学ぶことができていた。今後は、One Minute Talk に3 minute writing という書く活動を取り入れて、さらにそれを reporting するという話す活動にもつなげていきステップアップさせていきたい。

(2) 原稿作成に向けて

モデルパフォーマンスは生徒のモチベーショ

抽出生徒	パフォーマンス評価				合計点	コメント
	声	目線・態度	visual aids	発表内容		
B	4	4	5	5	18	ジェスチャーやハガキを使ってよかった。
	4	3	4	3	14	実物がよかった。
	5	5	4	4	18	声がはっきりと出ていた。
	5	5	4	4	18	声や目線がよかった。
	5	5	5	5	20	しっかりと大きく、かまわずにはなせていたのでよかった。
	5	4	5	5	19	ハガキを近くで見せたりして、工夫が見られた。
	5	5	5	5	20	言うことない! Very good!
	4	5	4	4	17	相手の方をしっかりと見て発表できていた。
D	4	3	5	5	17	緊張していたのでいつもの調子が出ていなかった。
	5	3	3	5	16	目線が少し悪かった。
	5	3	4	4	16	電子黒板のほうばかり見ていた。
	5	4	5	5	19	あとちょっと覚えたほうがいい。
	5	5	5	5	20	とてもわかりやすくてよかったと思います。
	5	5	5	5	20	声もしっかり聞こえていてすごくよかった。
	4	5	4	5	18	よくできていました。すごいと思います。

資料15 生徒によるルーブリック評価

student	presentation					total	comments
	voice	eyes and attitude	visual aids	information	interest		
B	5	5	5	4	5	24	Excellent! Very clear and easy to understand.
	3	5	5	5	5	23	love head gestures and good use of visual aids.
	5	5	5	4	5	25	Great introduction.
	5	5	5	5	5	25	Very good! The contents are very interesting.
D	5	4	5	5	5	24	Talk to us, not to the ceiling! But very interesting.
	5	3	5	5	5	23	Good presentation with clear visual aids of information.
	5	5	5	4	5	24	Very pleasant to see. Students were well prepared.
	5	3	5	5	5	23	Your introduction is very interesting!

資料16 ジャッジによるルーブリック評価

ンを上げたり、目指すべき具体的なものを示したりするのにとても重要な役割を果たすものであった。あまりにも凝って難しいものにしてしまうと、生徒のモチベーションも下がってしまうので、そのレベルや内容、提示の仕方については注意を払った。今回は、前学年のモデルがなかったので、生徒によるモデルを示すことはできなかったが、先輩のモデルというのはかなり具体的でわかりやすいものとなるだろう。教師のモデルと生徒のモデルが併用できるように、記録を取っておき、次の学年に伝えていきたい。

今回のマッピングは、モデルパフォーマンスを作成するときに教師が使用したものから、生徒の文法知識やポキャブラリーなどを考慮して、最低限の項目を入れ込んだものを利用した。また、モデルパフォーマンスの原稿の横にマッピングに使った項目を示すことで、マッピングした後、どのような項目をどこに書けばいいのかトレーニングする意図もあった。何もないところからスタートするより、生徒はより具体的に書くことができ、そこからまっすぐ日本語に訳すことなく英語を書くことができていた。

今回は本番を含めると3回留学生に授業参加してもらった。1回目は、留学生のニーズを聞き出して、紹介するおすすめスポットを絞り込むためのものであったが、伝える相手がいるという必然性は生徒のモチベーションを上げることに大いに役立った。また、スポットを決めることにもとても積極的になり、彼らの要望に合

う場所を班で素早く決めることができていた。今までパフォーマンスの場面で授業参加してもらう形が多かったが、導入部分での参加というスタイルもぜひ今後も取り入れていきたい。

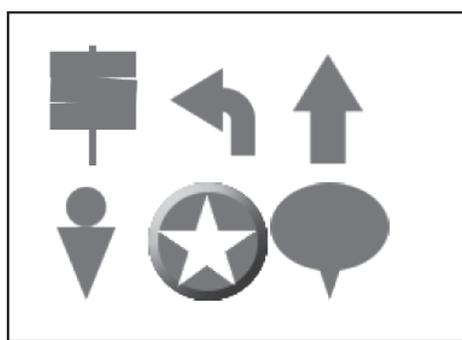
(3) ICTを活用したパフォーマンスの実際

今回パフォーマンスの中に電子黒板を活用して、道案内をするようにした。授業に入る約1か月前から、大学の情報担当の職員と打ち合わせをして、道案内の基本となる地図を作成した。その際に、生徒のレベルや留学生が聞いてわかる情報、範囲ということを考慮して、地図の細い道は全て消して大きな道だけを残すようにして、佐賀大学周辺マップを3種類作成した。資料17はその基本地図の1つとアイコンの例である。この基本地図をパワーポイントに取り込むことにより、アイコンを使って道案内の軌跡を示したり、紹介するスポットの視覚的な情報を貼り付けて、タイミングを合わせて開くように設定したりするなど工夫を凝らしていた。作業する時間は、授業の時間で確保することができなかったため、放課後に設定して作成させた。

電子黒板を使って生徒がパフォーマンスをすることが初めてであったため、作成したパワーポイントとタイミングを合わせるために、各班の練習時間を保証してやらなければならなかった。そのため、電子黒板で最終チェックをする班、教師から指導を受ける班、PCでチェックする班、暗唱練習をする班に分けて対処した。



資料17 基本地図とアイコン（一部抜粋）



次回からは、電子黒板を使った最終チェックの時間を考慮して、単元構成をしなければいけないと感じた。また、生徒がパソコンを使って表現したいことが、担当教師の知識・技能を超えていることもあり、今後は授業の中でも情報担当職員の活用が望まれる。

(4) ルーブリックによるパフォーマンス評価

発表に関わることについては、「声、目線・態度、visual aids」の3項目で評価することや、評価基準もだいたい定まってきた。パフォーマンスによって、内容に関わることの項目が違うことのほうが多い。ルーブリックを作成する際に、今後はこの内容に関わることに焦点を絞っていく必要があると感じた。

また、中間発表会でルーブリックの第1案や第2案を使用すると、自分自身の到達点やもつこの部分をチェックする必要がなかったかどうかということが確認できる。今回のパフォーマンスでも、中間発表会の中で、相手との情報のやりとりをしながら、相手が興味をもってきているか、内容を理解してくれているかを知る必要があるということで、原稿の中に質疑応答を入れたほうがよいと判断して書き加えた班がほとんどであった。また、ルーブリック項目にも、相手の質問に対して答えることができるかどうかの項目が加わった。

ルーブリックを使って評価することで、生徒が向かうべきところを明確にし、共通理解が図れるところが最大のメリットであった。

5 おわりに

資料18は1学期に取ったパフォーマンス課題に対する4件法によるアンケートの集計結果である。この結果を見ると、パフォーマンス課題に対して見通しをもって、ルーブリックを活用して自分の目標を明確にもって学んでいる生徒の姿が見られる。2学期も継続して同様のアンケートを行ったが、同じような結果がでた。このことから、パフォーマンス課題とそれを評価するルーブリックが生徒の英語の発信力を伸ばす手立てとなっているということが考えられる。

今後は、内容に関わることに焦点を絞ってルーブリック作成に取り組んだり、前学年の残したルーブリックをモデルパフォーマンスとともに紹介したりして、よりよいパフォーマンスやルーブリックの作成に当たりたい。また、現段階では、生徒は評価に使われるルーブリックを使って自己評価や他己評価を行っているが、それ以上の活用ができるのか探っていきたい。

また、全クラスに電子黒板が整備される日も近い。電子黒板を初めとするICTの活用についても研究を行っていきたいと考えている。

質問事項	1組	2組	3組	4組	全体平均
1 パフォーマンス課題には意欲的に取り組むことができましたか。	3.64	3.63	3.60	3.44	3.5775
2 パフォーマンス課題に向けて見通しをもって学習を進めることができましたか。	3.51	3.43	3.43	3.28	3.4125
3 ルーブリックで自分の目標を明確にもつことができましたか。	3.62	3.37	3.43	3.36	3.4450
4 ルーブリックで自分のパフォーマンスを振り返り、改善することができましたか。	3.54	3.20	3.28	3.23	3.3125
5 帯単元で取り組んでいる活動は、パフォーマンス課題に生かすことができましたか。	3.62	3.49	3.35	3.62	3.5200
6 パフォーマンス課題に取り組むことで「聞く」力が伸びましたか。	3.67	3.34	3.45	3.54	3.5000
7 パフォーマンス課題に取り組むことで「話す」力が伸びましたか。	3.74	3.46	3.68	3.62	3.6250
8 パフォーマンス課題に取り組むことで「書く」力が伸びましたか。	3.64	3.43	3.38	3.51	3.4900
9 パフォーマンス課題に取り組むことで「読む」力が伸びましたか。	3.69	3.43	3.65	3.46	3.5575

資料18 1年生1学期 パフォーマンス課題アンケート結果

〈参考文献〉

- 文部科学省『中学校学習指導要領』2008.
文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』
2008.
文部科学省『国際共通語としての英語力向上の
ための5つの提言と具体的施策』2012.
西岡加名恵『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書2008.
西岡加名恵・田中耕治『「活用する力」を育て
る授業と評価 パフォーマンス課題とルー
ブリックの提案』学事出版2009.
松下佳代『パフォーマンス評価－子どもの思考
と表現を評価する－』日本標準ブックレッ
ト2007.
田中耕治『パフォーマンス評価 思考力・判断
力・表現力を育む授業づくり』ぎょうせい
2011.